

湯ノ丸山&烏帽子岳山行報告

【山行日】2024年1月6(日) 晴れ
【集 合】岩舟支所P AM 7:00
【費 用】マイカー1台 : 5000円
【メンバー】CL:鈴木ユ、SL 廣瀬 石澤、福島
【コースタイム】岩舟支所 P6:00 = 地蔵峠
P8:05/8:25~湯ノ丸山 9:40/9:50~鞍部 10:20~
烏帽子岳 11:10/11:40~鞍部 12:30/12:40~
地蔵峠 P13:30/13:40~道の駅「雷電くるみの里」
14:00/14:15=岩舟支所 P16:05



当初の計画は夏沢鉱泉から硫黄岳と天狗岳に登る予定だったが、メンバーの経験や装備では難しいと判断し中止にした。代替山行として今回の湯ノ丸山から烏帽子岳の雪山山行を計画した。7日の成人の日に計画したが、天気予報を見て比較的穏やかな天気の日に変更した為、4名での山行となった。岩舟支所を7:00に出発し、北関東道から上信越道を走り地蔵峠の駐車場に着く。広い駐車場には車が少なく、トイレの前に車を止めて出発の準備を行う。トイレを済ませストレッチを行ったら出発する。

スキー場を見るとリフトが動いて無くて休業中なので、スキー場の中を登って湯ノ丸山に向かうことにする。夏道に沿ってトレースが付けられており、ゲレンデの急坂をツボ足で登って行く。登り切ったリフト終点のベンチで小休止し、衣服調整と水分補給を行う。

ここからは緩やかな登りになり、正面に丸い



お椀を伏せたような湯ノ丸山を見ながら歩いて行く。今年は異常なほど雪が少なく、歩き易いが雪山としては物足りない。中分岐からの道と合流し、風見鶏の鐘の先から本格的な急登が始まる。一步一步滑らないように足を置き、慎重に登って高度を上げて行く。高度が上がるにつれ展望が開け、振り返ると高峰山や浅間山が素晴らしい。「雪山はこの景色が見られるから楽しいんだよね。」と、皆さん嬉しそうに登って行く。高度が上がるにつれ風が強くなり、山頂からの下りに備えて山頂手前の風が弱い場所でアイゼンを付ける。山頂に出ると風が強く、記念写真を撮ったら早々に鞍部に向かって下って行く。



鞍部への下りは急坂で雪も多いが、アイゼンを付けたので安心して下れた。鞍部からの登りはトレ



ースがしっかり付いていて、締まった雪にアイゼンが効きとても登りやすい。斜面をトラバース気味に登り、尾根上に出ると展望が開け歓声が上がる。風も穏やかになり、今登ったばかりの湯ノ丸山やこれから登る烏帽子岳が素晴らしい。ここからの登りは展望の稜線歩きが続くが、岩と雪がミックスしたトレースを登るので、より慎重に足を進める。小烏帽子岳山頂は狭いが、これぞ山頂と言った360度の大展望が得られ素晴らしい。一旦下ってから岩場の急登

を登り切ると、烏帽子岳山頂に着く。山頂は広くこちら360度の大パノラマを得られるが、富士山や北アルプスは霞んで見られなかった。それでも四阿山と根子岳、草津白根山や浅間山、八ヶ岳など、素晴らしい展望が楽しめた。大勢の登山者がランチを食べており、我々も展望が良い岩に腰を下ろしランチタイムとする。

お湯を沸かしてカップ麺やスープを作り、おにぎりやパンを頬張った。絶景を見ながら食べるランチは格別に美味しく、至福の一時を過ごすことが出来大満足。ランチが済んだら下山開始し、往路を戻って鞍部を目指す。下りは目線が変わり、体力的にも余裕があるので、展望を存分に楽しみながら下って行く。鞍部まで下って休憩し、残ったおやつをいただき足を休める。ここから



からは湯ノ丸山の南斜面をトラバースしながら下るが、小さなアップダウンがあり歩きにくい。樹林帯の道を下り平坦な道になると白窪湿原が右に見え、キャンプ場を過ぎると道路を下るようになる。カラマツの樹林帯を抜け、お土産屋の間を通ると駐車場に着く。靴を履き替えトイレを済ませたら車に乗り帰路につく。途中、道の駅「雷電くるみの里」に寄り、お土産を買ったら岩舟支所に向かう。穏やかな天気恵まれて、山頂からの大パノラマを楽しめ、大満足の雪山山行となった。